

trivia ■ 皮膚科のトリビア ■ (143)

本欄は、浅井皮膚科クリニックのホームページに連載されている「皮膚科のトリビア」を紹介させていただくものです。学会・研究会などで聞きししたことをその都度まとめ、連載されています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

アトピー性皮膚炎の症状の性差

第65回日本アレルギー学会学術大会から(平成28年6月17日)

アトピー性皮膚炎の大規模臨床研究。とくに男性と女性の臨床症状・検査値の違いを検討した。男性には白内障、網膜剥離などの眼合併症、結節性痒疹、Hertoghe徴候などの激しい搔破による病変、頸部の色素沈着が多く、女性には両手の湿疹が多かった。平均SCORADは男性50.7、女性47.7と大差はないが、血清IgE値の平均は男性が11,979 IU、女性が3,330 IUで男性が高値だった。金属アレルギー(Ni, Co, Cr)の合併は男性30%、女性42%と女性に多く、フィラゲリン遺伝子変異はともに20%で性差はなかった。

「納得のいく結果である。男性のほうが強い力で搔破をすること、女性は家事、装飾品と関連する皮膚炎があることは、注目すべき点と思われる。女性のほうがTh2サイトカインの産生能が高いらしいが、それが臨床症状の性差に反映されているかどうかは明らかではないようだ」。

毛包虫による小水疱

第866回日本皮膚科学会東京地方会から(平成28年6月18日)

眼瞼に生じた自覚症状のない小水疱。周囲にわずかな炎症があり、眼部の単純ヘルペスに似た臨床。鏡検ではひとつの小水疱

に16匹の毛包虫が陽性で、水疱型毛包虫症と診断した。イオウの外用で改善せず、イベルメクチンの内服で改善した。

「毛包虫が鏡検で、1カ所の病変から10～12個以上あれば、病因と考えてよいというルールがあるらしい。毛包虫は酒皰に伴う痤瘡様発疹や小膿疱からも見つかることが多いが、10個まではないように思う。メトロニダゾールの外用が有効だったかもしれない」。

萎縮性結節性皮膚アミロイドーシス(ANCA)はSjögren症候群の皮膚症状である

第866回日本皮膚科学会東京地方会から(平成28年6月18日)

60歳代の女性。腹部に水疱様の外観を呈する黄白色の皮内結節があった。病理組織学的に真皮にアミロイドAL蛋白(IgG, λ)の沈着があり、汗腺周囲に形質細胞を混じる小円形細胞の浸潤があった。精査でSjögren症候群(SS)あり。本邦におけるANCAの40%はSSに併発し、患者の多くは中年女性である。

「SSの皮膚症状は、1) SSを強く疑う皮膚症状として、環状紅斑、高γグロブリン血症性紫斑、虫刺様紅斑、2) まれだがSSと関連の深い皮膚症状に、ANCA、後天性無汗症、3) SSを念頭に置いて精査すべき皮膚症状として、凍瘡、薬疹、指端壊疽、蕁麻疹様血管炎があるとのこと」。

トリビア (trivia) = 3を意味するtriと十道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにもある場所」。そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

浅井俊弥
Asai, Toshiya

浅井皮膚科クリニック

(〒240-0013 横浜市保土ヶ谷区帷子町1-14)

ホームページアドレス：

<http://www.asai-hifuka.com>

足の爪白癬に対する 内服治療の課題

横浜市皮膚科医学会学術講演会から(平成28年6月23日)

爪白癬に対する抗真菌薬内服治療は、認可されてからすでに20年が経過し、いくつかの課題がみえてきた。①内服治療に抵抗し正常な爪の伸長がない症例がある、②内服治療で正常な爪の伸長がみられても部分的な白濁が残る完治しない症例、③内服治療で臨床的にも真菌検査でも完治した症例が1年後に同じ爪に再発する症例、④初回治療以降のドロップアウトが20%にみられる。①は爪切りの回数を聞き、伸びない場合は内服治療をあえて行わない。②はグライNDERなどで削る。③はおそらく休眠胞子の形で残っていたものが再発の原因。

「確かに、皮膚科医側も抗真菌薬内服が発売された当初のモチベーションが落ちていくようだ。最近発売になった外用薬がどこまで有効か興味があるが、①の伸びない爪に対する新薬の外用は行わないと決めた」。

ス属に属し、いずれもネッタイシマカやヒトスジシマカが媒介する。中南米、東南アジアに蔓延しており、輸入感染症として重要。蚊に刺されてもジカ熱を発症するのは20%ほどだが、発症した妊婦から小頭症の児が生まれる確率が10%程度とのこと。ジカウイルスは発症後1週間は患者の尿から排泄され、また、精巣で増殖し感染から62日目の精液中に存在し、性交で男性から女性への感染が確認されている。

「初めて発疹の臨床写真をみせてもらった。デング熱、チクングニア熱との鑑別は臨床からはむずかしそうである。2016年2月5日に感染症法上の4類感染症に指定され、全例報告になった」。

ジカ熱は性交でも感染する

第867回日本皮膚科学会東京地方会から(平成28年7月9日)

10歳代男性の本邦初の症例。ブラジルから帰国後に発熱と播種状紅斑をきたし、ジカウイルス感染症と判明。ジカウイルスはデングデングウイルスと同じフラビウイルス

